

ハシボソミズナギドリの死骸

白浜海岸に相次ぎ漂着



半年かけて太平洋を数万キロ移動するという海鳥ハシボソミズナギドリの死骸が、白浜

学瀬戸臨海実験所、久保田信准教授が見つけた。同海岸では毎年ではないが、しばしば漂着が確認されており、決まって5月中旬から6月上旬だとい

△ 北浜に漂着したハシボソミズナギドリ

(白浜町臨海で)

う。久保田准教授によると、今年漂着があったのは5月24日と27日の2回。2羽とも若鳥とみられ、死後数日たった

た。過去10年の北浜とその周辺での定点観測による漂着物調査では、2003年5月19日に1羽、05年5月22～31日に5羽、06年5月20日～6月7日に17羽。08年5月24日と09年5月23日にそれぞれ1羽だった。このほか、同じミズナギドリの仲間のオオミズナギドリは11年6月13日に番所崎の磯に1羽だけが漂着している。

ハシボソミズナギドリは、翼を広げると90センチほど。タスマニア周辺の島々が繁殖地。成鳥は3月下旬から4月上旬にかけて、幼鳥はそれより1カ月遅れで、多い時には数十万羽の群れをつくって北へ移動する。赤道を越えて日本を

かすめ、ベーリング海へ到達して北アメリカへ回った後、南下する。こうして太平洋をほぼ1周し、タスマニアに戻って繁殖する。

久保田准教授は「日本には春から夏にかけて近づく。繁殖地での栄養不足による栄養失調や、嵐に遭うなどの悪条件によって移動できなかったのだろ」と話している。